

## 2 章 地震動の概要

### 2.1 地震概況

2007年3月25日9時42分頃に、能登半島沖の深さ11kmを震源とするマグニチュード6.9の地震が発生し、図2.1に示すように、石川県の七尾市、輪島市、穴水町で震度6強を、志賀町、中能登町、能登町で震度6弱を観測した。この地震は、「平成19年（2007年）能登半島地震」と名づけられた。表2.1に本震と主な余震の諸元を示す<sup>1)</sup>。図2.2に、3月25日～4月3日の期間に発生した余震の分布を示す<sup>2)</sup>。余震は、西南西から東北東（真北から約60度）方向の長さ約40km、幅が約15kmの水平面から約60度傾斜した長方形面内に分布している。図2.3に、今回と過去の地震余震活動を比較したものを示す<sup>3)</sup>。2004年の新潟県中越地震のように活発ではなく、1948年の福井地震をやや下回るレベルで推移している。

観測された記録の中で震度階が震度5強以上であった観測点における計測震度と最大加速度を表2.2に示す。K-NET観測点の能都（観測点コードISK004）とKiK-net観測点の柳田（ISKH02）以外の観測点の計測震度と最大加速度は気象庁の地震・火山月報<sup>4)</sup>に掲載されている値である。最大加速度は3成分合成値である。震度6強が観測された観測点では計測震度、最大加速度ともに大きい傾向にあるが、気象庁の輪島観測点（JMA輪島）では他の観測点に比べて計測震度のわりに最大加速度が小さい。このことはJMA輪島の地震動では加速度において卓越しやすい短周期の地震動よりも長周期側の地震動が強かったことを示唆している。

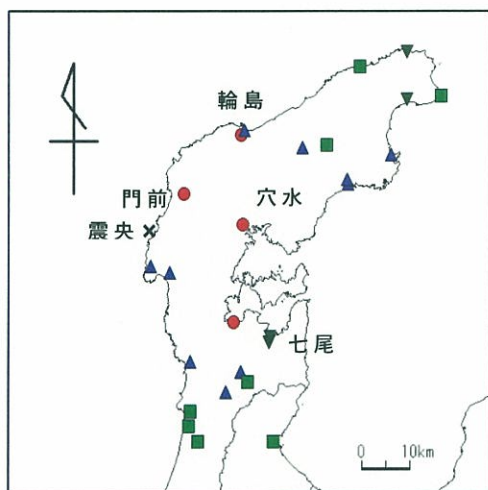


図 2.1 震央と震度分布図

(●は震度6強, ▲は震度6弱,  
▼は震度5強, ■は震度5弱以下)

表 2.1 本震と余震の諸元<sup>1)</sup>

	発生日時	M	最大震度	北緯	東経	深さ(km)
本震	3/25 9:41:57.9	6.9	6+	37°13.2'	136°41.1'	11
余震(a)	3/25 18:11:45.1	5.3	5-	37°18.2'	136°50.3'	13
余震(b)	3/26 7:16:36.4	5.3	4	37°10.0'	136°29.3'	0
余震(c)	3/26 14:46:34.6	4.8	5-	37°9.9'	136°33.1'	9
余震(d)	3/28 8:08:14.5	4.9	5-	37°13.3'	136°42.5'	13